

向学館通信

2008・1・25

高校、大学への入試直前です。頑張れ！！

今からの学習：①点数を伸ばしやすい科目や単元に力を注ぐこと。理科・社会の1、2年の範囲の復習など。②英単語や漢字を覚えること。③過去問を見て、記憶や理解が曖昧になっているところを補っておく・・・など。

カンニングのような勉強の仕方は、やめましょう

かなり前にも一度注意したことがあります。勉強をしているような恰好はしていますが、全く頭に残らないやり方をしている人がいます。そのやり方を紹介しておきます。

以前の「向学館通信」に載せたのとほとんど同じで、覚えておられる人には繰り返しになりますが、再度、とりあげます。

中学生には、英語のテキストを各人にわたしています。そのテキストには解説の部分と問題の部分があります。成績が上がらない人ほど、解説の部分ほとんど読まないで、いきなり問題に取りかかっています。しかし、解説を読んでいないので、当然、答えを書くことができません。そこで、解説のほうをながめて、答えをさがし、問題と似たところを発見すると、そこを写していきます。

これでは答えを写しているだけで、覚えることも頭を使うこともしていません。これは、勉強ではなく、カンニングそのものです。(ここまでは、以前に書いた内容です)。

いま、英語に関しては、「短文暗記」を全員に奨励しています。問題をいくらやっても、なかなか英語に慣れませんが、短い文を正確に覚えることで実力がつきます。さらに、パソコンでアロクワークという教材を使って単語、発音、構文に慣れてもらうようにしています。

理科や社会も、問題集をたくさんやっていますが、理解や記憶につながらないやり方をしている人がいます。問題を解いて、答えを書いていきますが、知らないところは、当然、とばしていき、丸つけの時に正解を写しています。これは、一見すると、当たり前のことのように思えますが、実は「カンニング」と同じなのです。**どこがいけないのか。**

(1)「答えを写す」というのは、その場は分かったつもりになりますが、せいぜい、2、3日で忘れてしまうような行為でしかありません。頭に残そうとするなら、分らないところを教科書なり参考書なりで調べるか、先生に聞くか、しなければだめです。つまり、「論理的に分かる」ことが必要なのです。ところが、まちがったやり方でたくさん問題をこなして「すごく勉強した」という錯覚に陥っている人は、自己満足しているようですが、成績は全く伸びません。

(2)問題をたくさんやれば成績が良くなると思っている人がかなり多いようです。しかし、問題をたくさんこなして成績が良くなるのは、数学くらいのもので、この数学にしても、既にわかっている問題をいくらたくさんやっても上達はしません。(ところが、実際には、数学でも宿題などでたくさん問題を与えられ、そのためにしんどい思いをしている人の大部分は、すでにわかっている問題をやらされているのです。つまり、本当の意味での勉強ではなく、無駄をしているのです)。理科や社会は、問題の数をこなすのがいいのではありません。理解することが必要なところはきちんと理解することなしに、覚えることもできません。勉強の量より質が問題です。

「答えを見て写す」というやり方を続けると、考えることも覚えることもできなくなります。

理科・社会に弱い人は、国語力に問題が！

中学生くらいになると、新聞を読んだり、興味のわいた本を自分で探してきて読んだり、というのが、昔は普通だと思われていましたが、いま、こういうことをしている人は非常に少ないと思います。文を読むということが少なくなり、そのために、常識と思われることでも知らないことが増えています。常識と思われるレベルの知識が少ないことと、国語力が低いこと(この二つは相互に関連しているように思われます)が、理科・社会に弱いという結果につながっているようです。

この解決には、国語力の強化や、家庭でニュースや社会的な出来事を話し合うといったことが大きなウェイトを占めると思います。こうした基礎力がないと、教科書を読んでも分からないか、読もうともしないか、ということになります。こうした人は、**教科書の太字の部分だけを意味もわからずに覚えようとして**。しかし、十分に意味が分かっていないことを記憶にとどめるのは、人間の頭脳には**無理なことです**。理科・社会は単純な「暗記もの」では、決してありません。